

愛知県常滑市（国内 23 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 10 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 5.6 万羽）

発生家きん舎の構造：ウインドウレス鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（直立 8 段ケージ 4 列（1 階・2 階各 4 段）、
通路 3 本）

2 施設の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、海沿いの丘陵部にある養鶏団地の一角に位置する。養鶏団地の周辺は雑木林や収穫済みの水田に囲まれており、水田には二番穂が出ているところもあった。
- ② 当該農場は、1 月 2 日に発生が確認された今シーズン国内 17 例目発生農場（愛知県 1 例目）が含まれる別の養鶏団地から南東に 500m ほどの距離に位置する。
- ③ 当該農場は、同日発生が確認された国内 24 例目発生農場と幅 5 メートルほどの道を挟んで隣り合っていた。
- ④ 当該農場は、ウインドウレス鶏舎 3 棟、集卵施設、堆肥舎等で構成されていた。発生鶏舎は 3 棟のうち、7 年前に建てられた比較的新しい鶏舎であった。また、調査時 1 鶏舎は出荷後の空舎期間中だった。

3 通報の経緯・発生時の状況

- ① 農場長によると、発生鶏舎（通報時約 307 日齢）では約 3 万羽の採卵鶏が飼養されており、通常の死亡羽数は 1 日当たり 4～5 羽程度であったとのこと。
- ② 農場長によると、1 月 9 日の朝の見回り時には異状は認めなかったが、当日昼に発生鶏舎に立ち入った際に、鶏舎中央部分からやや入口寄りにあるケージの下から 3 段目のケージで複数の鶏が死亡していることに気づいたため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 調査時、発生鶏舎では通報のあったケージ付近で複数の死亡が認められた。その他の鶏舎では特に異状は認めなかった。

4 管理人及び従業員

- ① 当該農場には農場長を含め従業員が 6 名おり、うち 4 名が鶏舎内の飼養管理、2 名が集卵作業に従事していたとのこと。鶏舎の担当は日替わりで決めていたとのこと。
- ② 当該農場は、24 例目農場とともに、隣接する非発生農場から大雛を導入しており、導入作業時にはこれら 3 農場の従業員が運搬作業を行っていたが、それ以外の時期には従業員の行き来はないとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 当該農場の入口には、立入禁止看板と車両消毒用の動力噴霧器及び更衣室が設置されていた。農場入口には広く消石灰が散布されていた。また、農場裏手の完熟堆肥の搬出場所にも車両消毒用の動力噴霧器が設置されていた。
- ② 従業員が衛生管理区域内に立入る際は、事務所で更衣後、衛生管理区域入口にある更衣室で踏込消毒、農場内専用長靴への交換、手指消毒を行い、飼養管理担当者は更衣室に保管してある洗濯済みの鶏舎用作業服を持って農場内に入場するとのこと。飼料運搬業者等の来場者も同じ更衣室内で、専用作業着への更衣、長靴の交換、手指消毒を行うとのこと。

- ③ 従業員及び廃鶏業者等の外来者が鶏舎に立入る際は、鶏舎入口に設置された踏込消毒槽（逆性石鹼及び消石灰）で靴底消毒を実施し、鶏舎専用長靴への交換及び手指消毒を実施していたとのこと。長靴の交換場所は交換前後で交差しないように配置されていた。
- ④ 鶏舎の周囲には消石灰が散布されており、冬季は週に1回程度の頻度で追加散布を行っているとのこと。
- ⑤ 発生鶏舎の換気方式は、鶏舎の側面のインレットから入気し、妻面のファンから排気していた。ファンは温度で自動制御されているが、換気を確保するために冬季でも2台は稼働する設定となっていた。ファンの内側には2×5センチ程度の金網が設置され、ファンの停止時には外側のシャッターが閉鎖する構造だった。インレットの開閉は温度に応じて手動で行っており、外部への開口部には金網が設置されていた。側面手前側のクーリングパッドは、冬季は内側から雨戸が閉められていた。糞乾装置は除去されており、鶏舎妻面に残った入気口は閉鎖されていた。
- ⑥ 飼料タンク上部には蓋が設置されており、閉鎖系ラインで鶏舎内に繋がっていた。タンク下に飼料こぼれはなかった。
- ⑦ 給与水には、消毒済みの地下水を使用しているとのこと。
- ⑧ 集卵コンベアの鶏舎外出口にはシャッターの設置はなかったが、上部にはカバーが、下部には金網が設置されていた。
- ⑨ 発生鶏舎の鶏糞は、3～4日に1回（週2回）除糞ベルトを稼働させ、鶏舎外に搬出しているとのこと。鶏舎内の除糞コンベアへの落とし口は板で蓋がされていた。鶏舎外に搬出された鶏糞は直ちにホイルローダーでたい肥舎に運び入れ、発酵処理しているとのこと。発酵、乾燥まで終了した完熟堆肥は、フレコンバッグ又はバラで出荷。完熟堆肥を搬出する運送業者は入口に設置された動力噴霧器で車両消毒を行い、専用作業着への更衣、長靴を交換した上で場内に入場するとのこと。
- ⑩ 死亡鶏は、袋に入れた状態で鶏舎内の出口付近に保管し、一日の作業の最後に袋をアルコール消毒のうえプラスチックコンテナに入れて回収し、一輪車等で、敷地内の衛生管理区域外に設置された焼却炉まで運搬した後、袋ごと焼却処分しているとのこと。運搬に使用したプラスチックコンテナ及び一輪車は場内に戻す前に消毒を行っているとのこと。当該焼却炉は、24 例目農場及び隣接する非発生農場も使用していた。
- ⑪ 廃棄卵については、鶏舎清掃時に除糞コンベアに落とし、鶏糞とともに発酵処理しているとのこと。
- ⑫ 当該農場では、近隣での発生を受けて、消石灰を追加散布するほか、入気量を少し減らしていたとのこと。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場長によると、農場周辺はカラスが多く、カラスを見つけた時はレーザーポインターで追い払うほか、カラス除けのタコを設置しているとのこと。また、電力会社に依頼し、農場周囲の電線に鳥よけを設置したとのこと。そのほか、スズメやセキレイを見かけることが多く、調査時もありたい肥舎付近や鶏舎周囲に多数のスズメを確認した。また、鶏舎の外壁の鉄鋼部分に鳥が巣を作ることがあることから、ネット等で対策を行っており、調査時も一部に巣材のようなものを確認した。
- ② 農場周囲にはイタチを見かける他、農場内でまれにネコを見かけるとのこと。
- ③ 鶏舎ネズミ対策として殺鼠剤と粘着シートを設置しているとのこと。発生鶏舎ではあまりネズミは見かけないとのこと。調査時、発生鶏舎内にラットサインはほとんど見かけなかった。農場長によると、非発生鶏舎でネズミを見かけることがあるとのこと。

（以上）